

2018年度 東北学院大学 国語 解答速報(2月1日実施分)
全学部型(文・経済・法・教養学部の全学科・全コース)

【解答】

大問一

問一 幻想的なく自由

問二 1

問三 自主的な自己決定は、外的条件が拘束的に働いている現代日本の若者たちにはほど遠いものだから。(四五字)

問四 3

問五 5

問六 強制された規律やしきたり(一二字)

問七 現代日本の若者たちが自主的な自己決定への不安から、規律に拘束された社会人生活を求めること。(四五字)

問八 決まりきった型通りで新鮮味がないこと。

問九 規律と服従の社会人生活(一一字)

問十 4

問十一 3

問十二 a=2 b=2 c=1 d=1 e=2

問十三 ア=1 イ=2 ウ=2 エ=1 オ=2 カ=1

大問二

問一 あ=きゅうせい い=登竜(龍)門 う=余儀 え=しゅんじゅん お=汲

問二 4

問三 以心

問四 2

問五 3

問六 水

問七 5

問八 a=高 b=成 c=目 d=手

【講評】

大問一 現代文・論説

総評

日高六郎「戦後思想を考える」からの出題。本文の難度・分量・設問数は例年並みだが、例年出題されていた字数指定のない短文記述問題が出題されていない。

本年度の特色

設問数は全一三問。通常の私大入試問題としては多めであるが、本文全体の主旨・構成に関わる問題が多く、個々の設問(空欄補充・語彙・抜き出しなど)を通して全体の主旨を整理することができる。とりわけ今年は問二・六の抜き出しと、問十二の適語補充を処理することで記述の方向が出る形になっており、私大の現代文入試としては典型的な形の良問。

記述は二問であり、これも例年に準じる。基本的には設問の指定を明確に把握し、対応する文脈をしっかりとつかむことで対応できる。ただし、普段から記述問題をまとめる練習をしておくことが合格のカギとなる。

大問二

漢字・ことわざ・慣用句などの問題。常識的なものが多い。例年より漢字の読みは難化した。

【学習にあたって】

細かい文脈の読み取りの問題が多いが、そうした設問を通して本文全体の構造を総合的にとらえることを求められているので、一つ一つの問題をバラバラに考えるのではなく、他の設問との関連づけを考えて処理することが必要。

とりわけ、記述問題の配点が高め(各十点前後)であることが予想されるので、早めに過去問に取り組み、コンスタントに得点できる答案を書く練習を積んでおくことは必須。

また、知識事項の配点が高め(読解が七割、知識が三割)なので、ここで得点できないと致命的。日頃から漢字・成語・慣用表現・ことわざなどの練習を怠らないこと。